

全国老施協発第 679 号
令和 6 年 7 月 1 2 日

介護福祉士国家試験パート合格
の導入に関する検討会構成員各位

公益社団法人全国老人福祉施設協議会
会長 大山 知子

介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する意見書

今後見込まれる 85 歳以上人口割合の増加や生産年齢人口の急減といった更なる人口構造の変化やそれに伴う社会環境の変化を背景に、2040 年には 69 万人の介護人材不足が見込まれている。令和 6 年度介護報酬改定では介護現場で働く方々の処遇改善を着実にを行うための見直しが行われたが、近年の賃金の上昇によって給与の高い他業種への流出も懸念されている。

介護人材の確保及び定着は、我が国の高齢者福祉・介護を維持して行くための喫緊の課題であり、アクティブシニアや外国人介護人材の活用、ICT 導入等、あらゆる方法で乗り切らなければならない。

このような中、現在議論されている介護福祉士国家試験のパート合格の導入は、高齢者福祉・介護施設等で働きながら介護福祉士資格取得を目指す受験者、中でも在留資格「介護」取得を目指す外国人介護職員にとって福音であり、歓迎すべきことと考える。

全国老施協が令和 5 年度に実施した、介護福祉士国家試験受験対策のための過去問題サービスを利用した外国人介護職員に対するアンケート（利用者数 143 名、回答者数 46 名）によれば、高齢者福祉・介護施設等で働いている外国人介護職員で令和 6 年 1 月の介護福祉士国家試験を受験した 39 名のうち、試験直前（3 か月間程度）に一日 4 時間程度又は 5 時間以上の勉強をしたと回答した者は 100%（6 名）、3 時間程度と回答した者は 80%（5 名）が合格している。

また、日本語能力レベル N1 の方は 100%（3 名）、N2 の方は 62%（13 名）、N3 の方は 33%（5 名）が合格となっており、日本語能力によって顕著な差が出ている。制度上、N4 レベルから受け入れ可能であることから、日本語の習熟度が日本人と外国人の平均正答率の差

異に表れているものと思われる。(別紙参照)

難しい日本語学習を含め、働きながら受験勉強をする実務経験ルートの者が大多数であることを考えると、限られた在留期間の中で資格取得を目指す外国人介護職員にとっては、パート合格を導入することにより、必要な科目を段階的に習得することが可能となることで合格率のアップにつながり、介護人材の確保および定着へとつながるものと考えられる。

ただし、導入に当たっては、次の点についてご配慮願いたい。

1 介護福祉士資格の質の水準を下げないこと

パート合格の導入は、あくまで受験しやすい環境とすることで資格を取得しやすくし、一定以上の資質をもつ介護職員を増やすことが目的であると理解しており、介護職員の数の確保のために介護福祉士の質を犠牲にするようなことがあれば、介護の仕事に対する誇りとモチベーションの低下につながり、かえって人材の確保・定着に逆効果と考えられる。

今後、認知症高齢者等のニーズに対応するため高い専門性を有する介護人材の確保が求められていることから、介護の専門職として相応しい資質を国家が保証するという制度に鑑み、その専門性の水準を維持することは重要である。

また、外国人介護職員に関しては、試験の難易度を下げ、簡単に在留資格「介護」を得られることとなれば、それを目的とした入国者が増え、資格取得後より給与の高い地域や他産業へ流出する者が増えることが懸念される。

2 パート合格を外国人受験者に限定すべきではないこと

令和6年3月の「介護福祉士国家試験の検証に資するデータ分析報告書」によれば、外国人受験者のみに導入することも検討できるのではないかと、この意見があったとされている(9頁)。

現在、N4の日常会話が不十分なレベルから入国し、働きながら、難解な漢字の医療専門用語がならぶ「医療的ケア」科目群までカバーして試験をクリアすることは難易度が高く、日本語理解へのハンデを理由に外国人受験者のみに適用することは一考に値する。

しかし、今後求められる介護人材は、認知症ケアや、多職種連携によるチームケアなど、高度なレベルでコミュニケーションが重要となることを考えると、高齢者福祉・介護施設等の第一線で活躍してもら

うためには日本人と同等の水準は必要と考える。

このため、日本人と外国人とで試験方法に差を設けるべきではなく、パート合格の導入には賛成であるが、外国人受験者のみに導入するという案に対しては反対である。

3 外国人介護人材定着促進支援

今後、外国人介護職員が増えていくことに伴い、日本語学習支援及び住宅確保を含め、受け入れ施設の経済的負担が増えていくことから、国及び地方自治体による支援の一層の充実をお願いしたい。

以上

(別紙)令和5年度 外国人介護人材向け「介護福祉士国家試験受験対策事業」利用者アンケート(全国老施協)

○アンケート概要

外国人介護人材の介護福祉士国家試験合格率アップを目的に、全国老施協が令和5年度に実施した「介護福祉士国家試験受験対策事業(岡山外語学院の協力により同学院が制作したアプリ「learn to work」を利用して過去問題の学習を行うもの)」の利用者に対し、第36回介護福祉士国家試験合格発表後の令和6年3月末にアンケートを実施(利用者数143名、回答者数46名(回答率32.1%))

○クロス集計

対象:Q6 介護福祉士国家試験を『受験した』に回答した方 39名

		全体	合格	不合格	合格 (%)	不合格 (%)
質問	単一回答	39	21	18	(54%)	(46%)
Q4. 日本語能力試験 (JLPT) のレベル	N1	3	3	0	(100%)	(0%)
	N2	21	13	8	(62%)	(38%)
	N3	15	5	10	(33%)	(67%)
	N4	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	その他	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
Q8. サポートアプリの 満足度	満足	21	15	6	(71%)	(29%)
	やや満足	5	3	2	(60%)	(40%)
	普通	12	3	9	(25%)	(75%)
	やや不満	1	0	1	(0%)	(100%)
	不満	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
Q9. サポートアプリの 利用頻度	ほぼ毎日利用	12	10	2	(83%)	(17%)
	週に4~5日	4	3	1	(75%)	(25%)
	週に2~3日	7	3	4	(43%)	(57%)
	週に1日	10	4	6	(40%)	(60%)
	2~3週間に1日	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	1か月1日程度	5	1	4	(20%)	(80%)
	全く利用しなかった	1	0	1	(0%)	(100%)
Q10. 試験直前期※、 1日の勉強時間 ※3か月間程度	5時間以上	3	3	0	(100%)	(0%)
	4時間くらい	3	3	0	(100%)	(0%)
	3時間くらい	5	4	1	(80%)	(20%)
	2時間くらい	15	8	7	(53%)	(47%)
	1時間くらい	4	0	4	(0%)	(100%)
	30分くらい	8	3	5	(38%)	(63%)
	ほとんど勉強しない	1	0	1	(0%)	(100%)
	無回答	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
Q11. 介護福祉士国家試験 にむけての学習方法 *複数選択	〔本〕過去問題集、模擬問題集、一問一答	28	18	10	(64%)	(36%)
	〔本〕テキスト、解説書、教科書	18	7	11	(39%)	(61%)
	〔本〕日本語の学習のみ	4	0	4	(0%)	(100%)
	〔Web・アプリ〕「learn to work」アプリ以外の過去問題アプリを利用	22	12	10	(55%)	(45%)
	〔Web・アプリ〕介護福祉士会WEBサイト「にほんごをまなぼう」	5	1	4	(20%)	(80%)
	〔Web・アプリ〕日本語の学習のみ	2	0	2	(0%)	(100%)
	施設内での研修	7	2	5	(29%)	(71%)
	勉強していない	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	その他	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!